

プラズマ・核融合学会誌

第91巻第2号

2015年2月

解 説	大型高温超伝導マグネットの開発の現状と展望－高温超伝導導体の分割製作と接合技術による大型マグネットの開発－	橋爪秀利, 伊藤 悟, 江原真司, 遊佐訓孝, 柳 長門, 寺崎義朗, 田村 仁, 相良明男	87
小 特 集	社会との連携をめざしたプラズマ・核融合アウトリーチ活動の展開		
	1. はじめに	南 貴司, 小西哲之	97
	2. 理科教育の現場にプラズマ・核融合を	門 信一郎	99
	3. 高校生シンポジウムの取り組み	小川雄一	107
	4. インターネットアウトリーチと核融合ポータル	笠田竜太	111
	5. 「サン・ポール・レ・デュランスの風」への道のり	中西秀哉	115
	6. プラズマ・核融合学会広報委員会の取り組み	日渡良爾, 柏木美恵子, 水口直紀, 畑山明聖, 坂本慶司, 永津雅章, 草間義紀	120
	7. 日本原子力研究開発機構のアウトリーチ活動の取り組み	春日井 敦	125
	8. 核融合科学研究所のアウトリーチ活動の取り組み	高畑一也	132
	9. プラズマ・核融合分野の社会連携について	大場恭子	137
講 座	粒子運動論～惑星から荷電粒子まで		
	3. 離散シンプレクティック積分法の理論	徳田伸二	141
	4. 応用		
	4.1 太陽系力学に於けるシンプレクティック数値積分	伊藤孝士	149
	4.2 ビーム物理学	大見和史	154
Plasma and Fusion Research 掲載論文アブストラクト			160
インフォメーション			161
	幅広いアプローチ活動だより(53)		
	【会議報告】 インフォーマルミーティング「非平衡極限プラズマ全国共同連携ネットワーク研究計画の現状と今後の展開」の報告／The 16th International Workshop on Radiative Properties of Hot Dense Matter 会議／第25回 IAEA 核融合エネルギー会議 (FEC2014)／第56回アメリカ物理学会プラズマ物理分科会 (APS-DPP) 年会		
Plasma & Fusion Calendar			178
本 会 記 事			179
	学会賞募集のお知らせ		
	編集後記		

表紙の絵

周波数コムを用いた Ka バンドマイクロ波ドップラー反射計を開発し、大型ヘリカル装置 (LHD) に適用した。図は4つの周波数チャンネル (すなわち4つの空間測定点) の複素周波数スペクトラムの時間変化を示している。この周波数スペクトルのドップラーシフト量はポロイダル速度に比例する。接線 NBI 入射に対応して各点における散乱信号のドップラーシフト量が変化する様子が観測された。(Tokihiko TOKUZAWA *et al.*, Plasma and Fusion Research Vol.9, 1402149 (2014) <http://www.jspf.or.jp/PFR/>)

【複写をされる方へ】本学会は、本誌掲載著作物の複写に関する権利を一般社団法人学術著作権協会に委託しています。本誌に掲載された著作物の複写をご希望の方は、(社)学術著作権協会より許諾を受けてください。但し、企業等法人による社内利用目的複写については、当該企業等法人が社団法人日本複写権センター (社)学術著作権協会が社内利用目的複写に関する権利を再委託している団体)と包括複写許諾契約を締結している場合にあっては、その必要はありません (社外頒布用の複写については許諾が必要です)。

権利委託先：一般社団法人学術著作権協会 〒107-0052東京都港区赤坂9-6-41乃木坂ビル 3F Tel: 03-3475-5618 E-mail: info@jaacc.jp

複写以外の許諾 (著作物の引用、転載、翻訳等) に関しては、(社)学術著作権協会に委託しておりません。直接当学会へお問い合わせください。